

熊本日日新聞 読者の広場 若者コーナー

令和元年 5 月 3 0 日掲載

1 年 2 組 川原理瑚

5 月 1 9 日に中学校生活最初の体育大会がありました。私がこの体育大会で学んだことは、集団の中では、誰かがやらなければならないといけない場合があるということと、クラスの全員が心を一つにして臨まなければいけないということです。

まず、誰かがやらなければいけないという場合があるということは、応援団や様々な種目の選手を決めないといけない時に、みんなが「やりたくない」と言っているとなかなか決まりません。最初、私も応援団をやりたくはありませんでした。しかし、周囲に立候補する人もなくクラスメイトからお願いされ、先生から背中を押されたこともあって引き受けました。しかし、私は、団員になったお陰で、大きな声を出せるようになったり、クラスメイトに声をかけることができるようになったりしました。

次に、クラスの全員が心を一つにして臨まなければいけないということは、学年巧緻で長縄跳びを行う際に、心を一つにできるように頑張りました。初めは、全く跳ぶことができず、みんな勝手なことばかり言っていました。その中で、中心になる人たちの話を聞いていくうちに、ばらばらだった心が一つになりたくさん跳ぶことができました。

この体育大会で自分自身も、クラスとしても大きく成長できたと思います。これからも体育大会で学んだことを生かして、学級目標「前進」に向かって頑張りたいです。